

# 株式会社タイガーカワシマ（栃木県）

～ 農家密着型で農業の未来を創造する ～

## 1. 農業の発展のために

株式会社タイガーカワシマの歴史は古く、昭和15年に、現川島社長の祖父が創業したのが始まり。以来、小型農機具メーカーとして国内シェアトップクラスの製品を次々と生み出し、発展してきた。これは日頃から農家に出向き、農家の意見を取り入れ、農家の思いを農機具に反映してきた企業努力の賜物であると言える。

昭和58年に製品化した米麦自動選別計量機「パックメイト」は、選別機と計量器をコンパクトに一体化して性能を高めたものであり、現場の要望を取り入れながら改良を重ね、バリエーションも増やしてきた。現行製品での計量誤差は±20g以内を実現、選別能力も粒の大きさを100分の5mm単位で正確に選別できるほど優れている。

日本の農家は、農業人口の減少、高齢化の進展により、厳しい状況に置かれている。しかし、「食」は生きることの基本であり、日本人の主食として良質な米を今後も生産していかなければならない。そのためにも「農業を支える農家の方々と共に生き、『価値ある製品とサービス』で社会に貢献していきたい」というのが経営の基本方針である。

## 2. 技術者全員が知財担当者

同社では、技術者自らが、担当する分野の先行技術調査を行った上で技術開発を行い、発明が完成した際には、特許請求の範囲や明細書の下書き、図面の作成を行っている。さらに、特許電子図書館（IPDL）や外部調査機関を利用した自社・他社の特許分析も行っており、言わば現在7名いる技術者全員が知財担当者である。このような知財業務に加えて、開発した商品のネーミングから取扱説明書の作成、パンフレットのデザインに至るまで、一人の技術者が営業以外のすべての工程に携わっている。なお、特許出願における図面は社内の技術者が作成したものをそのまま使用している。

また、「パックメイト」の小型は「ちびメイト」、米袋用自動昇降機はラクダのマークの「楽だ君」、石抜機は「石取（せきとり）君」、温湯殺菌装置付催芽機は「湯芽（ゆめ）工房」のように商品のネーミングがユニークなのも同社の特徴である。

製品を多面的に保護するため、会社として、特許出願だけでなく、意匠や商標についても積極的な出願を促しており、そのための費用は惜しまない。

また、製品開発が終了した段階で出願していることから、取得した特許の実施率は70%超と高い。

自社製品を大手農機具メーカーの販路も利用して販売しているが、すべて自社ブランドのまま卸していることから、同社の技術優位性が垣間見える。

社員の誰もが、農家第一の製品作りを考えており、そのための技術開発に一生懸命取り組んでいる。

## 【保有権利に基づく製品例】



米麦自動選別計量器「パックメイト」



温湯殺菌装置付催芽器「湯芽（ゆめ）工房」

## <会社概要>

名称及び代表者名	株式会社タイガーカワシマ 代表取締役社長 川島 昭光
本社所在地	栃木県下都賀郡藤岡町大字藤岡4290
創業	1940（昭和15）年
資本金	1億円
従業員数	100名
主要製品	米麦自動選別計量機、催芽機、苗箱洗浄機、石抜機、温湯殺菌機
電話	0282-62-3001
URL	http://www.tiger-k.co.jp/